



かながわの農業農村整備

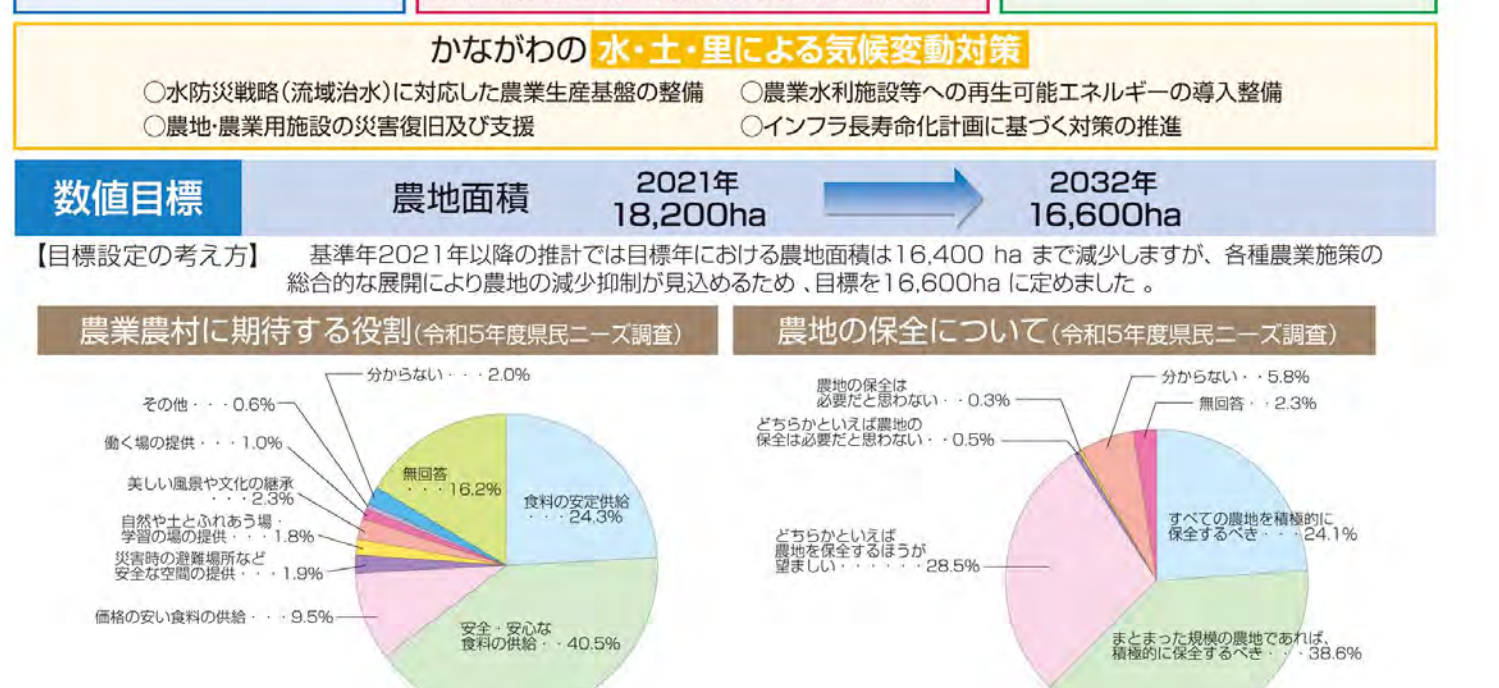
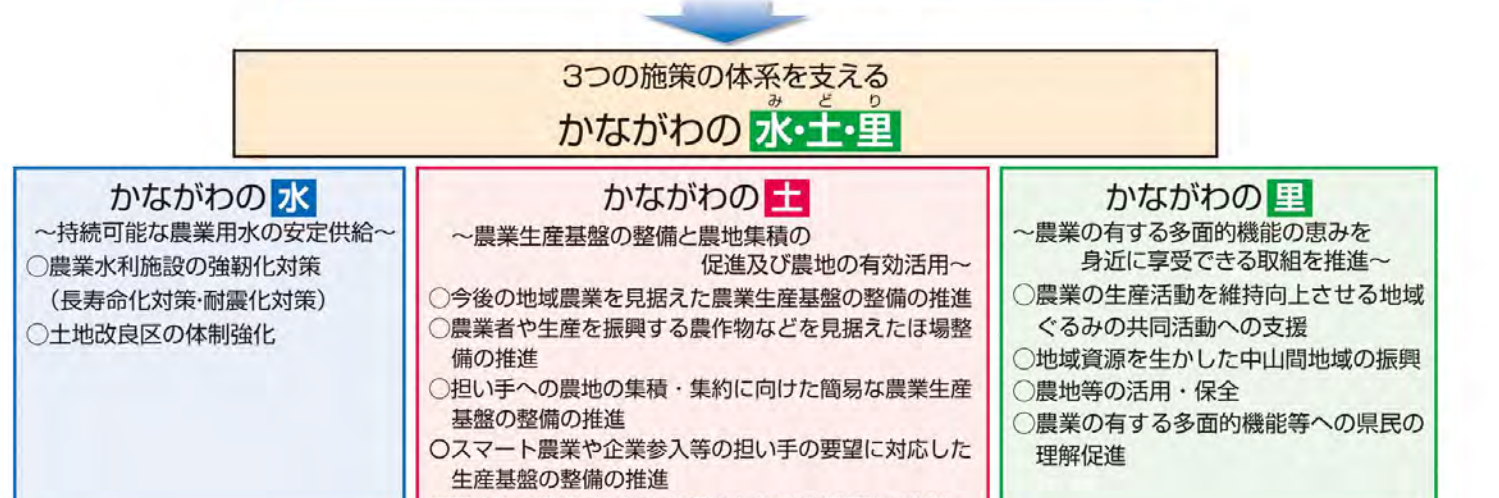
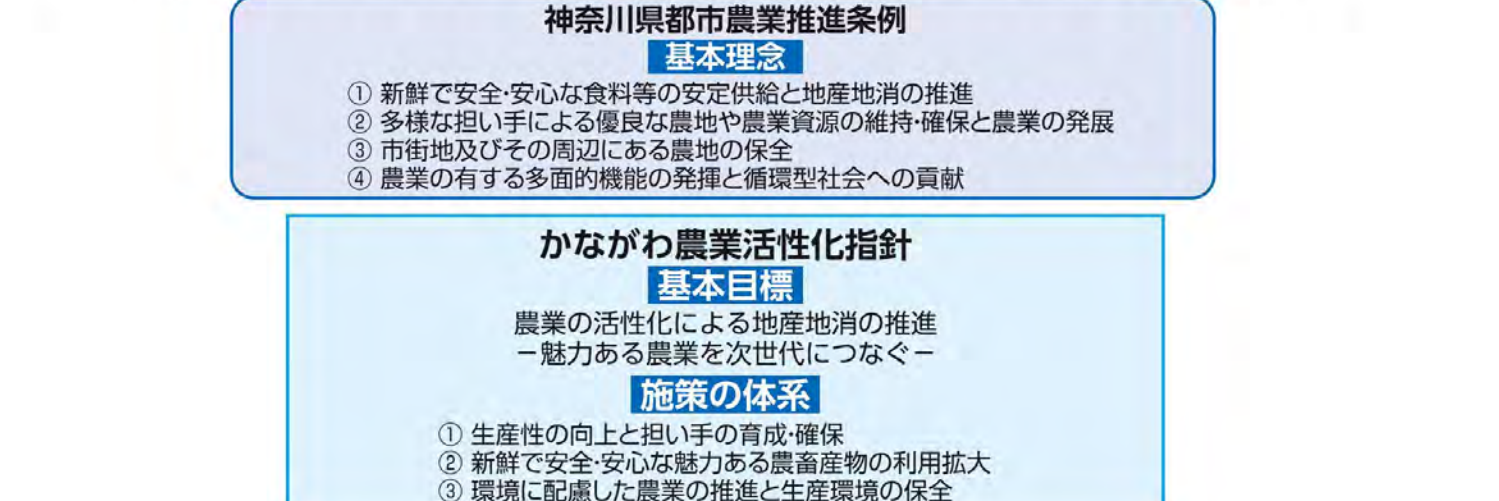
～未来へつなぐかながわの農地～



かながわの農業農村整備

～かながわの水・土・里プラン～

かながわの農業は、温暖な気候や大消費地に近いという利点を生かして新鮮な農産物が多く生産され、また、農地を高度に利用した土地生産性の高い経営が行われています。そして、農業農村整備には、農業の生産性の向上を図り、まとまりある優良農地を確保し、食料の安供給と多面的機能の発揮を通じた都市農業の持続的発展が期待されています。



かながわの水

～持続可能な農業用水の安定供給～

区分	施設数	施設延長(m)
頭首工	5	-
用水路	7	76,285
排水路	1	9,440
計	13	85,725

1 農業水利施設の強靱化対策

●老朽化が進んでいる施設は、施設の寿命を少しでも延ばして、深刻な機能低下に至る前に補修、補強及び更新を進めています。

(1) 幹線用水路の長寿命化対策 (2) 頭首工の長寿命化対策

県営かみがい排水事業 相模川右岸2期地区 (平塚市、厚木市、伊勢原市) | 農業水利施設予防保全事業 小沢地区 (相模原市、愛川町)

(3) ストックマネジメント情報の一元管理

●農業水利施設等の機能保全計画や点検記録などの各種ストックマネジメント情報を地図情報システム(GIS)で一元的に蓄積、共有化し、ICTを活用した施設の適切な維持管理を行います。

2 土地改良区の体制強化

●土地改良事業に関する相談事業や研修などを支援し、土地改良事業の円滑な推進、人材育成及び土地改良区の体制強化を図っています。

本県の取組とSDGsの関係

かながわの土

～農業生産基盤の整備と農地集積の促進及び農地の有効活用～

●農業の生産性を飛躍的に高めるためには、担い手への農地の集積・集約化を進め、収益性の高い農業経営を実現する必要があります。そのため、水田ほ場の大区画化や畑地帯の水管理省力化等の農業生産基盤の整備を計画的に実施し、農地中間管理機構と連携して担い手への農地の集積・集約化を推進します。

数値目標

意欲ある担い手への農地集積率 2021年 21.2% → 2032年 30.0%

生産基盤整備と一体となった農地集積率 2021年 42% → 2032年 53%

1 農道整備の推進

●農産物の輸送の効率化及び集出荷作業の省力化を図るため農道の整備を進めています。

農道整備事業 小田原湯河原地区 (小田原市、真鶴町、湯河原町) | 広域農道の整備による効果

2 畑地帯における農業生産基盤の整備

●農業経営の安定と次世代への継承に向けて、今後の地域農業を見据えた生産基盤の整備を推進していきます。

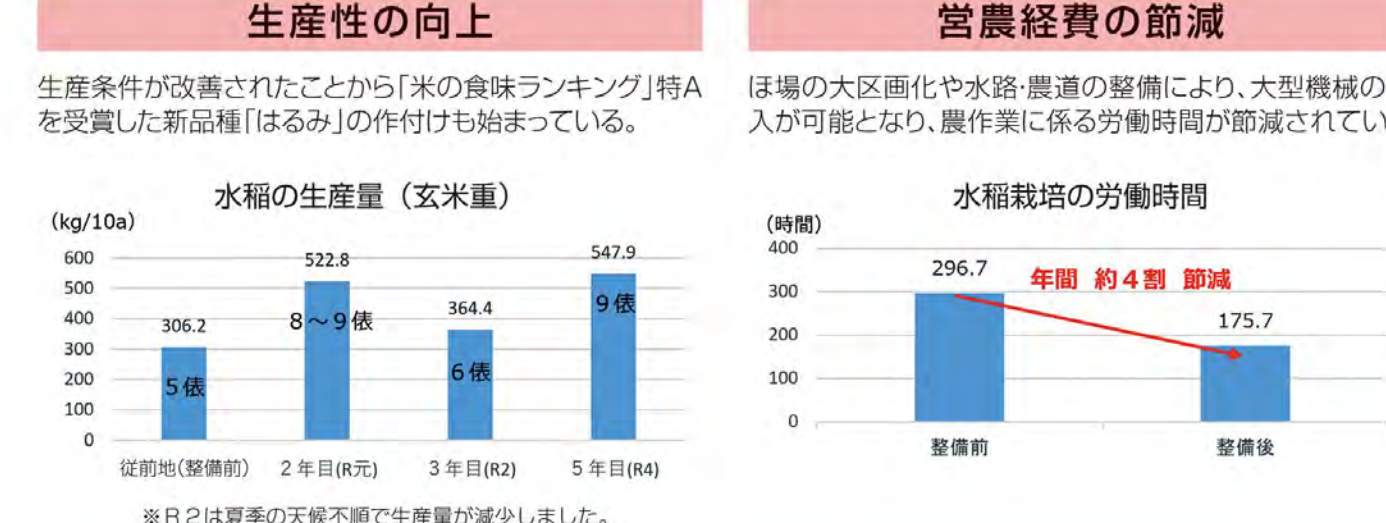
農村振興総合整備事業 清陵小網代地区(三浦市) | 農村振興総合整備事業 早川春日原地区(綾瀬市)

3 水田地帯におけるほ場整備

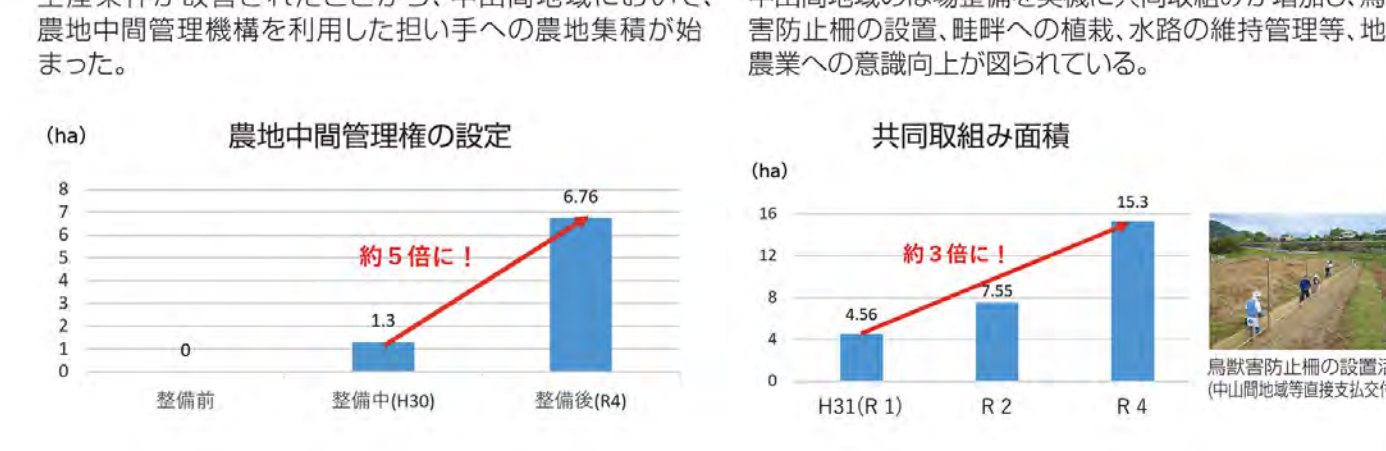
●生産性の向上及び農地集積・集約化を促進するため、地域の合意形成を働きかけ、中心となる農業業者を生産を振興する農作物などを見据えたほ場の整備を推進しています。

県営ほ場整備事業 内山地区(南足柄市)

ほ場整備事業による主な効果



農地集積の促進



かながわの里

～農業の有する多面的機能の恵みを身近に享受できる取組を推進～

1 地域ぐるみの共同活動への支援

●農業の有する多面的機能を発揮させるための地域ぐるみの共同活動や里地里山の保全活動を支援し、県民と連携した農地や里地里山の保全を促進します。

数値目標

里地里山の保全活動等に参加する県民数 2022年 7,520人 → 2027年 7,900人

(1) 多面的機能支払事業

(2) 中山間地域等農業活性化支援事業

(3) 里地里山保全等事業

2 県民と連携した農地等の活用・保全

●荒廃農地等を県が復旧・確保し、県民の力をマッチングさせることで、農地の有効活用を促進します。

数値目標

県及び農地中間管理機構が直接解消した荒廃農地面積 2021年 58ha → 2032年 100ha

(1) かながわホームファーマー事業、オレンジホームファーマー事業

(2) かながわ農業サポーター事業

3 農業の有する多面的機能等への県民の理解促進

